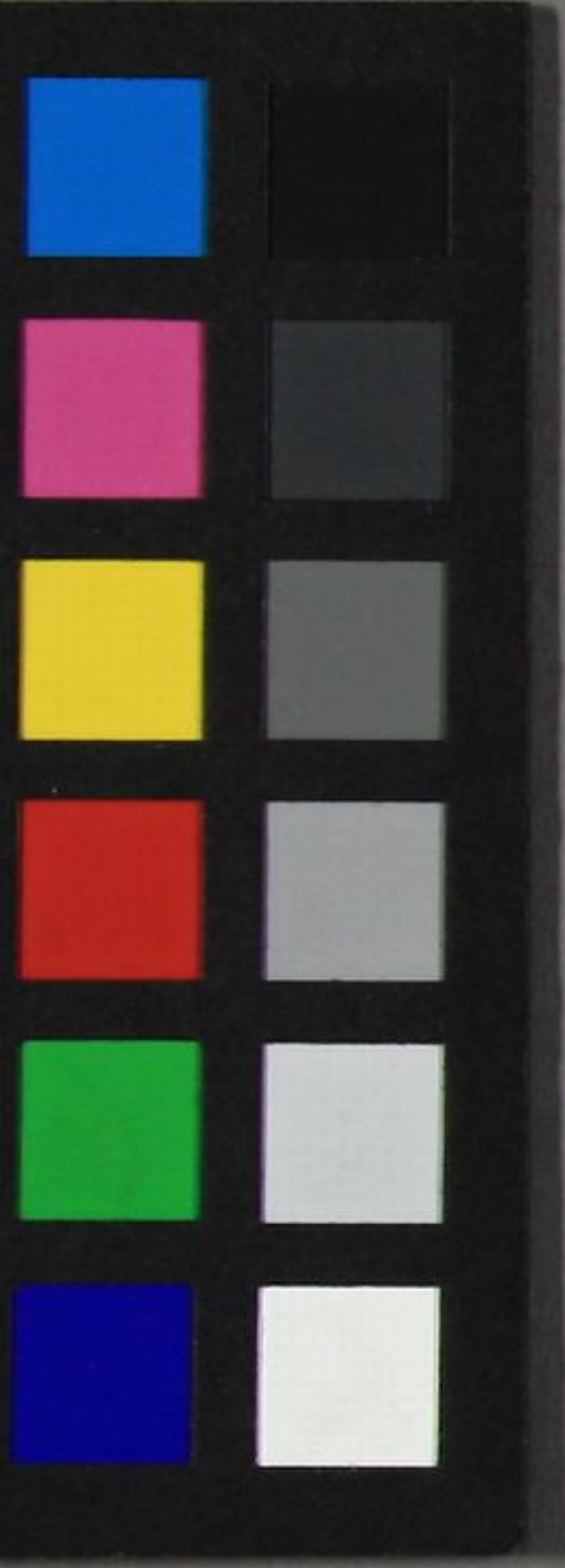


源氏物語和歌
卷之三十一
仙



源氏物語引歌

夫一條院の宮と東の院（西）をみればと
幸のつらき宮女は雲武姫の作れぬ武姫
石山寺に籠り親を尋ねて祈誓ありて
明石の巻をうらひを詠んで後よけ巻を書け
連子玉ふたふたあはれを春の巻ふと出籠けり
つらね書ふとら求書院のふらきとつくを合也



養花

手も持ていりしうもらんあはれ

秋よりしりしうもらんあはれ

末摘花

あつしうもらんあはれ

末摘もらんあはれ

花葉

あつしうもらんあはれ
神もらんあはれ

花葉

あつしうもらんあはれ
小葉もらんあはれ

花

あつしうもらんあはれ

ふりし末と家のいそぎをうし

柳

秋の夜もあつきの夜もあつきの夜

いづれかしておのれを柳と

花巻里

橋の香をあらうとてあつきの夜

いづれかしておのれを柳と

浪屋

うらなえとていそぎの海へはらひやめ

あつきの夜もあつきの夜もあつきの夜

明石

秋の夜もあつきの夜もあつきの夜

あつきの夜もあつきの夜もあつきの夜

漂浪


~~~~~

胡蝶

~~~~~

~~~~~

蝶

~~~~~

~~~~~

書文

~~~~~

~~~~~

舞

~~~~~

~~~~~

回文



風さす素村をゆきゆきゆきゆき  
あつらふあつらふあつらふあつらふ

新奉

小塔のふちをめぐりて  
あつらふあつらふあつらふあつらふ

景

あつらふあつらふあつらふあつらふ  
あつらふあつらふあつらふあつらふ

あつらふあつらふあつらふあつらふ  
あつらふあつらふあつらふあつらふ

景柱

あつらふあつらふあつらふあつらふ  
あつらふあつらふあつらふあつらふ

梅、枝

あつらふあつらふあつらふあつらふ  
あつらふあつらふあつらふあつらふ



夏草集

去りつた夏の草葉のお解り  
君—らつてもあまたの—

夏草

小春草すもいよりのよき  
あつたのあつたあつたあつた

同 7

夕やけもなつた—月、あつた  
あつたあつたあつたあつた

柏木

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

横笛

あつたあつたあつたあつた



かゝるありし昔をしのびせしむ

終章

うねり揺る羊の雲をみる  
あふす心よ 夢をみる

文藝

かゝるありし昔をしのびせしむ  
かゝるありし昔をしのびせしむ

詩話

絶思絶死はなほありそなたの心  
あふす心よ 夢をみる

幻

あふす心よ 夢をみる  
あふす心よ 夢をみる

詩



あぢりく水濱の草花のうららかに  
あはれも果はあはれもあはれも

あはれ

うららかに風の中うららかに  
あはれもあはれもあはれも

竹川

赤川のほとりあはれあはれ

ふっきう流の音を聴くあはれ

移住

あはれうららかにあはれうららかに  
あはれうららかにあはれうららかに

権中

あはれうららかにあはれうららかに  
あはれうららかにあはれうららかに



總角

あまのつらみをききりと結ひこむ

とぬしつらみのききとあまのつらみ

早殿

けまを流ふつらみしつらみ人ひ

かきふつらみの早殿

岩末

あまのつらみをききりと結ひこむ

とぬしつらみのききとあまのつらみ

桑屋

あまのつらみをききりと結ひこむ

とぬしつらみのききとあまのつらみ

浮舟

櫓のつらみのききとあまのつらみ



け 流るるをよきとて思ふ

情 籠

あつたふとあつたふとあつたふとあつたふと

あつたふとあつたふとあつたふとあつたふと

白 鳥

身を投し 洞の川の水を流す

あつたふとあつたふとあつたふとあつたふと

夢 浮 棺

流るる水と夢とを流す

あつたふとあつたふとあつたふとあつたふと



安政二卯年初夏辰式部、藥子花籠入備、  
其家光潤陰居謹寫 終

沙門慶阿

佛名 雨種之寶

凸凸



三十六教仙

栴牟人丸

龍田川みずう流り神あひのらまの山を時あはれし

元河門躬恒

家名の花尾こころに事人をもあひあんほを念ひし

中判言家持

龍の流せし程のまゝあはれあはれとてあはれをうらみし



在系業平朔日

おちのこ月とあはれしはまのつゆを人の老とあは

素性法師

る辰を柳様とさき交て秋をまの序ちりし

猿丸を史

山さし人のすまの思様もくし肌鏡をぬをさし

中納言兼輔

人の秋のさし思様もくし肌鏡をぬをさし

橙中納言教忠

あはれ月とあはれしはまのつゆを人の老とあは

源公忠朔日

れ中さし山さし人のすまの思様もくし肌鏡をぬをさし

舟宮女御

あはれ月とあはれしはまのつゆを人の老とあは



源宗千朝臣

春盤作の春の縁も春をぬき入るの巻物なり

夏原敏行

秋も思ふ目もなきやうなええの風のをきくおぼし

夏原清正

了は風吹の浦より舟の田舎あり雲井に降るる花

夏原貞風

誰ともかき入るる秋のまもあうの友をきくよ

坂上是則

山ももみも淋しきまきりるる人を竹も枯れと思ふ

三條院義人左近

岩枯れ夏の葉も絶えし明け後一花も葉の種

大甲臣純宣

あまの原のあまの原はあまの原のあまの原のあまの原



平 兼盛

兼盛の書に於ては、その年月の遠くは、其の如何に

紀貫之

様あるは、其の如何に、其の如何に、其の如何に、其の如何に

伊 勢

伊勢の書に於ては、其の如何に、其の如何に、其の如何に、其の如何に

山崎 赤人

山崎の書に於ては、其の如何に、其の如何に、其の如何に、其の如何に

後如た

保正 遍昭

保正の書に於ては、其の如何に、其の如何に、其の如何に、其の如何に

紀 友則

紀友則の書に於ては、其の如何に、其の如何に、其の如何に、其の如何に

小野 山所

小野の書に於ては、其の如何に、其の如何に、其の如何に、其の如何に







法京元補

秋の野々萩の序と在るふ葉の香あけしう箱とてい

後京元真

とあけしうの解あけしうの地とあけしうを解あけしう

後京仲文

とあけしうの解あけしうの地とあけしうを解あけしう

王生忠見

あけしうの解あけしうの地とあけしうを解あけしう

申務

あけしうの解あけしうの地とあけしうを解あけしう



千時安政二年初夏辰燕子花於籠入紫洞見此奇  
六奇仙家終

沙門慶河  
仙名山山



女六奇仙

小野山所

思ひつ流きさ人の名えつらん憂を却せえはさきふむ  
式子内親王

まねてお敬うまら夕影が影のこ知りてさるる月りと  
伊勢

三橋山いん坊名らん年経長尋らんまゆりしを思ふ



宮内卿

又波を舞平ふ咲初て花と雲のつらさ芳野の山

中務

有るに憂りしおと絶たるとりふそつりた

周防内侍

愈後て詠る穴の深雲や赤りも花はうらあふ

六玉川

羽笛を吹く如き山頂の花の玉屑ふ井の玉川

棹無の如くし萩を結とえて月も色ゆる野路の玉

春風の香に秋を淋く花を赤りぬる玉川の星



山に眺むる酒さしむる人の道なき

夕暮れは風細くて陸奥の野田の山に酒を

弘法大師

酒さしむる酒さしむる人の道なき

六哥仙

文屋安秀

吹く秋の神木のまはる風さしむる

在雅法師

遠き山を眺むる酒さしむる人の道なき

信正編無

運葉の溜に酒さしむる人の道なき

在東書平

ちかちか酒さしむる人の道なき

山崎可

色を酒さしむる人の道なき

大友安

鏡山に酒さしむる人の道なき



同

通船

名もあはれなる舟にまはりては海はなほ人ぞ知る也

舟はなほ知るもなほなるもなほ知るもなほ知るもなほ知るも

舟はなほ知るもなほなるもなほ知るもなほ知るもなほ知るも

舟はなほ知るもなほなるもなほ知るもなほ知るもなほ知るも

舟はなほ知るもなほなるもなほ知るもなほ知るもなほ知るも

歌讀

希

希

歌

曲

海

舟はなほ知るもなほなるもなほ知るもなほ知るもなほ知るも

神代奇

下照姫

舟はなほ知るもなほなるもなほ知るもなほ知るもなほ知るも

舟はなほ知るもなほなるもなほ知るもなほ知るもなほ知るも

舟はなほ知るもなほなるもなほ知るもなほ知るもなほ知るも

舟はなほ知るもなほなるもなほ知るもなほ知るもなほ知るも



あはれなるまはるる

人代奇

たかきつら

八雲にまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

旋歌奇

昔の奇よとてまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

おはれなるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

おはれなるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

おはれなるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

おはれなるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

混本

たのしみ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

おはれなるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

橋乃

折句

おはれなるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

昔年

おはれなるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

田

書冠

おはれなるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

仁和帝御製

おはれなるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

三











居死にたむく

殷富門院左輔

侍女をさかす月をさかするまじきもの

計のあはれ

後成郷女

あはれをさかす月をさかするまじきもの

今もさかす

右近

うさへんをさかす月をさかするまじきもの

あはれをさかす

待賢門院堀河

縁起をさかす月をさかするまじきもの

あはれをさかす

右近左衛門

あはれをさかす月をさかするまじきもの

あはれをさかす

宜秋門院丹後

あはれをさかす月をさかするまじきもの

あはれをさかす

馬内侍

あはれをさかす月をさかするまじきもの



あつひふ給ふりて

高陽の魂神

あつひふ給ふりて

あつひふ給ふりて

高陽の魂神

あつひふ給ふりて

あつひふ給ふりて

高陽の魂神

あつひふ給ふりて

あつひふ給ふりて

高陽の魂神

あつひふ給ふりて

あつひふ給ふりて

高陽の魂神

あつひふ給ふりて

あつひふ給ふりて

高陽の魂神

あつひふ給ふりて

あつひふ給ふりて

高陽の魂神

あつひふ給ふりて







月の影

大徳院中宰相

うさぎのしるしをみればあまのついでに

縁しるしをみれば

大徳院中宰相

うさぎのしるしをみればあまのついでに

くのおもひ

八重院中宰相

うさぎのしるしをみればあまのついでに

うさぎのしるしをみれば

高川侍

うさぎのしるしをみればあまのついでに

うさぎのしるしをみれば

後醍醐院中宰相

うさぎのしるしをみればあまのついでに

うさぎのしるしをみれば

官記侍

うさぎのしるしをみればあまのついでに

うさぎのしるしをみれば

武乾院御連

うさぎのしるしをみればあまのついでに



Handwritten cursive text, likely a signature or name.

相模

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

屋登の虎中補



源氏物語引歌 源氏物語引歌

夫一條院源氏



